



微笑

第59号
令和4年1月1日
発行者
綾瀬市身体障害者
福祉協会

明けましておめでとう
ございます



令和四年が始まりました。新型コロナウイルス感染症の流行で、二年近く身障協会や神奈川県、県身連、綾瀬市、綾瀬市社会福祉協議会等の行事も制約を受けたり、中止になったりが続いてきました。昨年十月以来感染者数も減っていますが、第三回目のワクチン接種も始まり、まだまだ安心した状態ではありません。

しかし、今年は当協会を初め綾瀬市、県身連、社協もコロナ禍での行事を行って行くつもりです。私達身障協会は五月十五日に綾瀬市保健福祉プラザで行う予定です。その後も各関係団体との行事も開催されると思います。



西川 和朗

横浜みなとみらいを先中散歩！
金子 寿

十一月の下旬に神奈川県庁で県の障害者施策審議会が開催され、会議後に今話題になっている横浜みなとみらいのロープウェイに乗ってきましたので、レポートさせて頂きます。

このロープウェイは、横浜のみならず、みらい地区の新しい観光交通手段&アトラクションとして、“日本初”の常設都市型ロープウェイ「ヨコハマ エア キヤビン」として、今年四月に運行を開始しました。

JR根岸線/横浜市営地下鉄の桜木駅前バスロータリーに新設された乗り場「桜木町」と、横浜ワールドポーターズ前に新設された乗り場「運河パーク」の間、約六三〇mを約五分で結んでいます。

今回は、神奈川県庁から横浜ワールドポーターズまで散策しながら移動して、「運河パーク」側の乗り場からロープウェイに搭乗しました。



ガラス張りの建物の「運河パーク」乗り場の一階にチケット売り場があります。有人窓口と自動販売機がありますが、障害者割引きなど各種割引を受ける場合は有人窓口でチケットを購入して、エレベーターで二階へ移動してロープウェイ乗り場に行きます。

ロープウェイのゴンドラ（キャビン）は定員八名で、入口がフラットになっていて私の電動車いすやベビーカーなどでもそのまま入れるバリアフリー対応となっています。ゴンドラの中も両側の座席が折りたたみ式になっているので、ゆったりと車いすスペースを確保できるようにもなっています。

また、各ゴンドラにはエアコンも設置されているので季節に関係なくいるので、最適な環境で空中散歩を楽しむことが出来ます。



私が最も気になっていたのは、定員八名のゴンドラに対して乗せる人数です。なんと嬉しいことにゴンドラ一基に対して一グループ（二名でもOK!）という素晴らしい対応でした。

乗車して少しずつスピードが上昇して外へと飛び立つ瞬間は、視界がひらけた景色に大感動！ロープウェイ

イは殆ど揺れを感じさせず、循環式なのですれ違いうゴンドラと横浜みなとみらいや運河などどのコラボレーションもロープウェイに乗っているからその光景でとても素晴らしいかったです。

片道は約五分で千円なので、移動手段というより景色を新たな角度から楽しめるアトラクションと捉えるのと良さそうです。料金は片道大人千円/子ども五百円ですが、障害者割引（障害者本人と付添者大人一名半額/障害者手帳の提示が必要）もあります。



今回は「運河パーク」側からロープウェイに乗りましたが、観光で訪れるならば桜木町駅前の「桜木町」乗り場から乗って、みなとみらい地区を空中から堪能してから、横浜ワールドポーターズ、横浜ハンマーヘッド、横浜赤レンガ倉庫などの観光スポットに向かうのも良いですね。

是非、皆さんも新型コロナウィルスが収束したら、横浜みなとみらいの空中散歩を楽しんでみて下さい。



令和三年度綾瀬市表彰式典

綾瀬市の市勢記念日にあたる十一月一日(月)、「令和三年度綾瀬市表彰式典」が綾瀬市オーエンス文化会館・大ホールで開催されました。

この表彰式典は、市の表彰条例に基づき表彰として、市政の発展、教育行政の発展、公共の福祉の増進、教育・文化の振興への貢献や、スポーツ・文化芸術の分野における優れた成績、ボランティア活動などに対しまして、市から表彰されるものです。当会からも「身体障害者福祉協会役員として永年にわたり障がい者福祉の増進に尽力」という理由で、一昨年には西川会長、今年には金子寿副会長、役員の前田敦子さんが一般表彰を受けました。福祉や障害関係の分野では、前田さんが代表して表彰状を受け取りました。



まだ新型コロナウイルスが収束していないということもあるので、今回は表彰を受ける人だけがホールに入り、シンプルながら式典が行われました。

あやせ「夢」アート展

十二月四日・五日に綾瀬市役所一階ともしびショップ「むー」で、夢アート展が行われました。

綾瀬市社会福祉協議会と当事者団体連絡会が主催し、市内の障がい団体、障害者施設の当事者が制作した作品を展示して、当事者と市民が交流する場として開催しました。

夏の暑い時期から社協と当事者団体が会合を開き、障害者週間に併せて展覧会を行うことに決まり、各団体や各施設に声をかけて作品を集めました。開催前日の十二月三日に各団体の方々(当会からは、西川会長の他に西山部会長や坂本幹事)が手伝ってくれて準備を行いました。



土日は来庁者が少ないからお客さんも少ないだろうと思っておりましたが、身障協会会員も来てくれて、初日は百人くらいの人出になりました。五日も七十人くらいの来客で、綾瀬市社会福祉協議会会長、事務局長、障がい福祉課課長などもおいで頂き、華やかな開催となりました。

各施設の方や立ち寄られた市民の方など多くの皆さんに「障がいを持つ当事者」の作品を見て頂いて、とても励みになったことと思っています。



自分の作品の前で記念撮影をバシヤ!



作品展は、夢アート展が終了した後「障害者週間」の九日まで展示されました。↑
今年度は、身障協会の行事としては総会の後、コロナ感染症が酷くなり他の行事が全て無くなり、寂しい状態でしたが、今回の夢アート展で、会員の方やボランティアの方々とお会いして元気な姿を拝見できました。



来年度は、身障協会だけでなく、市社会福祉協議会、市の行事なども行われることを祈って、新年度に向かいたいと思います。

「道の駅」整備計画が白紙に

既にご存じの方も多いと思いますが、市役所北側に整備を計画していた「道の駅」について、予定地の地下に廃棄物などの埋設物が見つかり、撤去に多額の費用と時間がかかることなどから、従来の場所での整備を断念したことが発表されました。

微笑四十八号でも報告しましたが、身障協会でも障害者や高齢者なども利用しやすい「道の駅」にして欲しいという願いから、担当課(都市計画課)の方と西川会長が意見交換などを行い、多目的トイレ、障害者用駐車場、点字ブロックをはじめバリアフリーの視点を取り入れて整備されるように話し合われてきました。

今回の計画が白紙になってしまったことは残念ですが、古塩市長も新たな用地で施設完成を目指す方針を示していることから、引き続きバリアフリーの視点をしっかりと取り入れてもらえるように要望を続けていきたいと思っています。

